

【質問項目】

1. 輸入規制について
2. ハラールについて
3. MENA 市場について

【質問本文】

1. 輸入規制について

■質問（しもづる）

私から手短かに三点いきます。

まず一ページの、輸入規制について、二国間協議の加速化が必要ということに関連して、一点伺います。

本県の誇る畜産物のさらなる輸出促進を図るためには、国家間協議が障害として横たわっている部分も多々ございます。実際に中国に行っても台湾に行っても、またドバイに行っても、スーパーをのぞくとオーストラリア産和牛というのが並んでいるのを見て、この市場に何とかして売り込めないものかなということ、行ってスーパーを見るたびに思うものであります。

この件について、今までも私、るる質問しておりますが、そのたびに、開促協と連携して、関係省庁に対して要請していただいているという御答弁をいただいております。

この取り組みはぜひ続けていただきたいんですが、一方で、やはり先ほど長田委員からもありました、ほかの県との連携というのが必要なのかなというふうに思っております。ほかの畜産物を主力としている県と連携して、国に対してより強力に、輸入規制の解除、二国間協議の加速化に向けて要請していくべきだと思うんですけども、現時点での関係省庁に対する要請内容について示してください。

□答弁（畜産課長）

それぞれ畜産物等含めていろいろ輸出をする場合に、各国が非関税障壁というものを設けておりまして、その中でも、口蹄疫とか鳥インフルエンザなどの家畜伝染病が発生していることの規制、それからあとは東日本大震災以降の放射能の規制、それからあともう一つは B S E ですね、牛海綿状脳症に係る衛生基準の規制、この大きく三つを非関税障壁として認識しております。

そういう中で特にやはり、委員からございましたように家畜伝染病関係のことで、大半の国は理解を示して輸出解禁をしていただいているんですが、なかなか応じていただけない国というのがありまして、そういうところでは、先ほどペーパーにも書いてございますように、開発促進協議会のほうでも要請しているんですが、あとは特に牛肉につきましては、鹿児島県の知事が会長になっていただいている肉用牛の全国協議会というのがございまして、十八の道県、黒牛の主産地が全て入っておる会でございますが、そこで事あるたびに、年に二回ほど国に対して意見交換会をしますとか要請などをさせていただ

て、その中でも意見交換をさせていただいているところではございます。

■質問（しもづる）

ありがとうございます。

やはり鹿児島一県だけで要請するというよりも、より多くの県で要請していったほうが当然に効果があるというわけですので、今お示しいただいたとおり、さらに加速化をして二国間協議を進めていただき、輸入規制を解除していただき、鹿児島のおいしい農畜産物をより多くの国に届けられるように取り組みを続けていただきたいと思います。

2. ハラールについて

■質問（しもづる）

二点目よろしいですか。

二点目はハラールについてであります。資料は八ページのほうであります。

有望市場に対して、ハラール認証取得などの対応が必要とございます。私もそのとおりだと思っております。一方で、三反園知事のマニフェストにも、ハラールの取り組みを加速させる旨の記載がされているわけですが、今のところ、ハラールへの取り組みを加速させるマニフェスト事項について、どのような時間軸で、どのような内容で実現させるのか、知事から指示は来ていますか。

□答弁（かごしまPR課長）

まだ現時点では具体的な指示というものはございません。

■質問（しもづる）

政策には、ボトムアップで仕上げるものとトップダウンで仕上げるものといういろいろあるかと思いますが、マニフェストに明確に定められたものというのは県民とのお約束でありますので、できるだけ早期に実現を図っていく必要があるわけでありまして。

今のところ知事から指示が来ていないというのは少々驚きではあるんですけども、十二月の補正、遅くとも三月の当初予算案において、マニフェストで加速させる旨のお約束をしているわけですから、どのようにして、どれぐらいの時間軸でやっていくのかということ、当然何らかの予算を使って、何らかの事業として取り組んでいく話でありますので、これはできれば十二月補正あたり、遅くとも三月の当初予算案で示せるように、ぜひとも担当課、そして知事からおりてこないのであれば担当課から知事に対して提案をするつもりで、これはマニフェスト事項ですので、ぜひ早期に明確に示せるようにしていただきたいなと思っております。

□答弁（かごしまPR課長）

当然、マニフェストに掲載されていることも承知してございますし、私どもにつきましても、過去二年間ハラールに関する事業をやってまいりまして、それを引き継ぐ形で今回、ASEANディレクター

というの配置して、引き続き情報収集等も行っておるところでございます。

そこら辺をしっかりと、いかにして進化をさせていくのか、そういったところについては当然、今現在、当初予算要求の時期でもございますし、しっかりと議論しているところでございますし、そこは当然、知事とも今後、相談しながら、こういった形で予算化をしていくのか、そういった部分についてはしっかりと議論してまいりたいというふうに考えております。

■質問（しもづる）

ありがとうございます。

今まで数年間積み重ねがあって、その上にぜひ進めていただきたいと思うんですが、一方で、マニフェストで明確に掲げたということは、同じような勢いで伸ばしていく、プラスして加速をさせていくということですので、そこが見えるような形で示していただければなというふうに期待しております。

3. MENA 市場について

■質問（しもづる）

最後に、未開拓市場のところ、UAEが書いてあります。私も実際にドバイを視察に行きまして、その結果思ったことが、確かにUAE、お金持ちは多いんですけども、購買力のある人口は少ないのかなというふうに思っております。そこは購買力のある人口を、経済を、出稼ぎに来て建設作業等に従事する方々が支えているという経済構造であります。

ただ一方で、UAE、ドバイそのものに売り込むというよりも、ここをゲートウェイとしてMENA市場、Middle East、North Africaの略だと思うんですが、中東・北アフリカ市場、今後、人口が激増してくる市場に対しての売り込むゲートウェイとして使えないのかなということを感じた次第であります。

そこで、今のところ、このMENA市場について県としてどういうふうな捉え方をしているのかということ、現時点でのお考えでいいのでお聞かせいただけませんか。

□答弁（かごしまPR課長）

現時点では、これまでにについては、やはり距離も遠いということもありましたし、ハラールの問題等もございまして、なかなか手をつけていなかった分野でございます。

ただ、といいながらも、やはりハラールの分野に関しては、これまでも研究する中で、マレーシアのハラール認証等の取得の基準といったものが非常に世界的にも厳格なもので、マレーシア認証を取得していることで、UAE等でもかなり信憑性があるものになるといったようなこともございました。そういったところのいわゆる勉強といいますかといったものはこれまでもしてきたところでございます。

それ以外にも、各部なりあるいは特産品協会なりが単発の商談会といいますか、いわゆる物産展等に出席した事例もございますけれども、今後はちょっとそういった、おっしゃるように中東全般に係るゲートウェイといった意味合いでの位置づけもできようかと思っておりますし、ほかの今後の、EUとかですね、こういった市場を開拓していくのかといった部分の議論は十分にまた庁内でもやりながら、進めてまい

りたいというふうに考えております。

■質問（しもづる）

ありがとうございます。

どうしても物理的な距離がありますので、まずは近接したアジア地域かと思うんですが、一方で、やはり人口が多い地域というのは、物を売っていく上で有望な市場になり得るのかなと思います。ぜひ今後の研究・検討課題にさせていただきたいと思ひますし、今までどうしても地理的に遠いと取っかかりがなかったりするわけですが、ぜひそこで、世界各地で活躍している県出身者もいらっしゃいますので、そういうところとも連携をして進めていただきたいなと思ひております。

というのが、実際ドバイに視察に行ったときにいろいろ組んでくださったのが、ドバイでホテルを営んでいる鹿児島出身の女性の方、この方がいろいろと手配をしてくださいました。いろんなところで活躍する県出身の方はいらっしゃいます。

知事も御自分の人脈を生かしたPRということをおっしゃっておられまして、それはぜひやっていただきたいと思うんですが、それにプラスして、鹿児島県が持っている県出身者の人脈、県滞在経験者の人脈というのも貴重なものでありますので、そこもフルに活用しながら、人口の多い有望な市場への展開を今後、図っていただければなというふうに思ひております。これは要望です。以上です。